

「事業名：飯舘村における農業再生と風評被害払拭のための教育研究プログラム」 2019年度事業の概要

東京大学 連携市町村：飯舘村

連携市町村との協定締結日：平成30年3月5日 現地拠点：福島県相馬郡飯舘村佐須滑87

事業のポイント

事業提案者は、原発事故の3か月後から飯舘村に赴き、NPO法人や農家と協働で独自の農地除染法を開発し作物の試験栽培を実施した。その活動の中、学生の現場見学会を実施して現地訪問前後における学生の意識の変化を目の当たりにし、飯舘村の農業復興には放射能汚染地というハンデにめげずに新しい日本型農業の創設にチャレンジする若者を育成することの重要性を痛感した。そこで本事業では、これまで蓄積されてきた大学知を教育研究活動に展開し、学生を飯舘村の現地に連れて行くことで学生に「現場を見ることの重要性」を実感させると共に、教員とフィールド研究を行うことで大学の社会的価値と地域復興のあり方を考えさせる機会を設ける。

2019年度の活動内容

(1) 学生の飯舘村における現地体験と意識変化の評価

現地における住民との交流や村内見学、ワークショップを含めるフィールドワークプログラムを3つの日程に分け実施し、全国各地の大学生を招聘する。基本的な二日間の構成としては、まず初日に村内見学を行い、二日目に「飯舘村との“寄り添い”方を模索する」と「飯舘村の将来を設計する」の2つをテーマとして、住民の方々を交えたワークショップを行う。なお、本ワークショップの全行程は、Twitterの「#までい大学」で検索することで、追えるようにする。

(2) 農業再生のための研究プログラム

水田の放射性セシウム分布状況を調査し、斜面から水路への放射性セシウムの流入について調査する。降下物の農作物への影響についても検討する。また、ダイズの放射性セシウム吸収に関する分子生物学的な検討として、生育全般を通じてのセシウム吸収に関与する遺伝子の探索を行う。そして、根近傍のセシウムやイオンの挙動を詳細に明らかにし、粘土鉱物の影響を明らかにする。



取り組みによって得られる成果

- ・全国各地から募集した学生を飯舘村の現地に連れて行くことで学生に「現場を見ることの重要性」を実感させると共に、教員とフィールド研究を行うことで大学の社会的価値と地域復興のあり方を考える機会を与える。
- ・斜面からの放射性セシウムの流入の寄与や、降下物の農作物汚染の影響が明らかとなる。
- ・ダイズの放射性セシウム吸収に関する分子生物学的なメカニズムが解明され、安全なダイズ栽培を目指す。
- ・根近傍域での水、イオン動態の粘土鉱物の影響が分かり、モデル化を行う。



斜面の放射性セシウム濃度調査